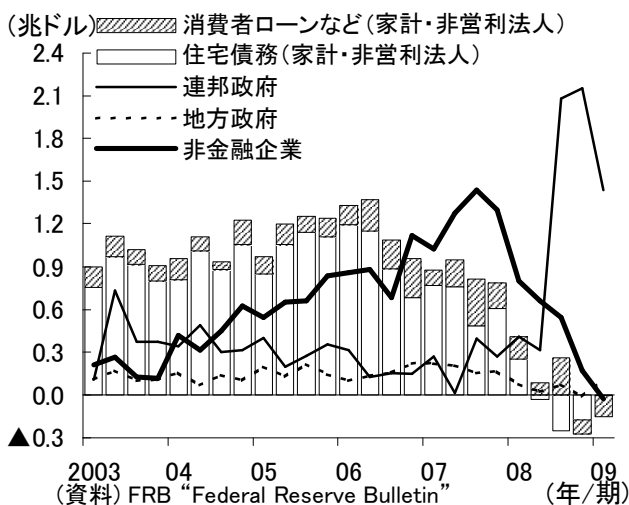


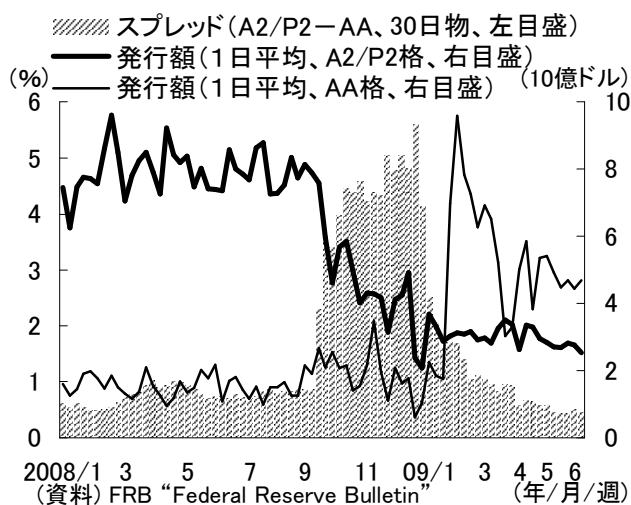
改善の兆し見られない米国金融情勢 ～ 資金調達難に加え、このところ金利上昇 ～

- (1) 株式市場や実体経済の動向から、米国経済は、最悪期を脱し持ち直しとの見方が台頭。しかし、金融情勢についてみれば、依然として改善の兆しは見られず。まず米国内資金循環から、各部門の債務増減動向をみると、昨年央の家計部門に続き、本年1～3月期には非金融企業部門でも減少へ（図表1）。さらに地方政府でも税収の減勢に拍車が掛かるなか、頭打ちへ。米国債務増加は偏に連邦政府の構図が一段と鮮明に。
- (2) 企業部門について、やや踏み込んでCP発行額の推移をみると、高格付けのA/A格企業では昨秋のリーマン・ショック以前を上回るペースで引き続き発行。それに対して、より低格付けのA2/P2格企業では発行額が同ショック以前の日平均80億ドルから大幅に減少。本年初来20億ドル強で低迷。資金調達環境が改善に向かう兆しは見当たらず。
- (3) 一方、米国銀行セクターが直面する情勢は一段と悪化。貸倒償却率、延滞比率とも昨年入り後の急速な上昇傾向に依然歯止めが掛からず（図表3）。分野別にみると、まず消費者ローン、次いで不動産担保融資が悪化。さらにこのところ事業者向けローンでも情勢が急速に悪化。貸倒償却率が既往最悪水準へ。
- (4) 加えて5月末以降、2年物や3年物など中期国債でも金利が急速に上昇。事態悪化に拍車が掛かるリスク大。

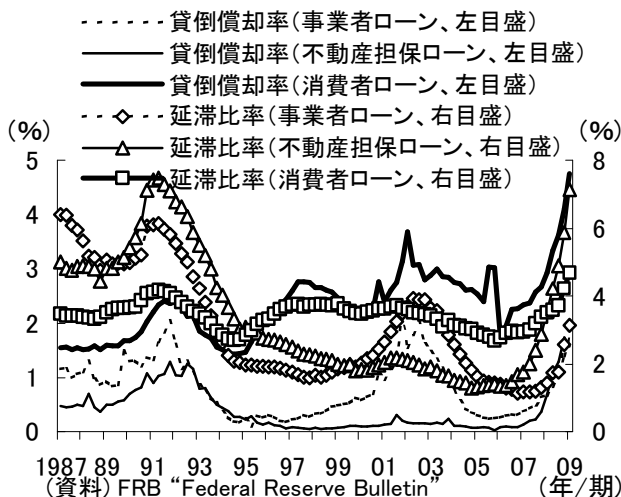
（図表1）米国部門別債務増減（季調済）



（図表2）米国事業会社CPの発行額とスプレッド



（図表3）米国銀行貸倒償却率と延滞比率の推移



（図表4）米国債金利の推移

